

15 文献総合目録

(1) 令和4年度に発表等を行った文献数一覧

(単位：編)

学 会 誌		公刊図書	機関誌	計
論文・報告	発表・講演要旨			
24	115	0	69	208

(2) 令和4年度に発表等を行った文献の目録

01 育種一般及び育種計画

011 総説

1. 高橋誠、林木育種の最近の成果と今後の方向性、フォレストコンサル、167:29-34、2022.06.
2. 高橋誠、特集「林木育種の最前線」について、森林科学、96:1、2022.10.
3. 栗田学、田村明、坂本庄生、CO2の吸収源として期待されるエリートツリーの開発と普及、JATAFFジャーナル、10(10):24-29、2022.10.
4. 栗田学、エリートツリー、これまでの歩みと将来展望、森林遺伝育種シンポジウムオンライン開催、12:、<http://www.fgtb.jp/symposium.html>、2023.03.
5. 栗田学、エリートツリーの開発・普及と森林吸収源、公開講演会「ネットゼロエミッション達成のための森林の役割」要旨集(2022)、P2、2022.10.
6. 松下通也、スマート林業時代の林木育種、森林遺伝育種、11(4):172-176、2022.10.
7. 松下通也、武津英太郎、花岡創、優れた樹木を選び広める林木育種事業一次世代のエリートツリー選抜にむけてー、森林科学、96:2-6、2022.10.
8. 松下通也、森林学における林木育種の役割:スギの表現型における多様性と適応性、森林生態セミナーWeb(2022)、#1、2022.09.
9. 井城泰一、笹島芳信、那須仁弥、竹田宣明、遠藤圭太、田村明、東北育種場で進めているカラマツ育種事業・研究について、北海道の林木育種、65(1):ページ未定、2023.01.
10. 矢野慶介、河部恭子(宮城県林業技術総合センター)、山崎修宜(宮城県林業技術総合センター)、宮下智弘(山形県森林研究研修センター)、渡部公一(山形県森林研究研修センター)、那須仁弥、井城泰一、谷口亨、東北育種基本区におけるスギおよびカラマツの特定母樹への申請と指定された個体の特性ー令和3年度の取組ー、林木育種センター年報(令和4年版)、112-113、2022.12.
11. 那須仁弥、林木育種と統計的手法、東北の林木育種230(2022.7)、4、2022.07.
12. 谷口亨、スギのゲノム編集ー新しい育種技術の活用を目指してー、森林と林業、2023年2月号:12-13、2023.02.
13. 小長谷賢一、バイオテクノロジーを活用した林木育種の可能性、森林科学、96:12-15、2022.10.

012 育種計画

1. 日下真桜(京都大)、亀井啓明(京都大)、松下通也、武津英太郎、北山兼弘(京都大)、小野田雄介(京都大)、スギの成長特性の遺伝的変異:若齢木と成木による多数の遺伝子型の比較、日本生態学会大会講演要旨集、70:P1-204、2023.03.
2. 日下真桜(京都大)、亀井啓明(京都大)、松下通也、武津英太郎、小野田雄介(京都大)、スギ精英樹における成長と光獲得様式の系統間差と幼老相関、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、11:P21、2022.11.
3. 松下通也、柔軟性の高い統計モデリングを用いた林木の生態生理学的研究、森林遺伝育種、11(2):59-62、2022.04.

02 遺伝、育種及び変異

021 選抜

1. 加藤一隆、カラマツ・グイマツのエリートツリーの開発及び特定母樹の指定、野幌の丘から、195:1、2023.03.

2. 加藤一隆、トドマツエリートツリーの開発及び特定母樹の指定、北海道の林木育種、65(2):1-4、2023. 03.
3. HANAOKA So(花岡創)、KATO Kazutaka(加藤一隆)、Estimation of optimal timing of early selection based on time trends of genetic parameters in *Abies sachalinensis*. (トドマツの遺伝パラメータの経時動向に基づく最適な早期選抜時期の推定)、*Silvae Genetica*、71:31-38、2022. 07.
4. 花岡創、中田了五、石塚航(道総研林業試験場)、米澤美咲(道総研林業試験場)、令和3年度までのアカエゾマツ第2世代精英樹候補木選抜の経過、林木育種センター年報(令和4年度版)、107-111、2022. 12.
5. 三嶋賢太郎、令和3年度東北育種基本区における新品種の開発、東北の林木育種、230:2、2022. 07.
6. 磯田圭哉、令和4年度の開発品種について、関西育種場だより、100:3、2023. 03.
7. 宮下久哉、高島有哉、三浦真弘、栗田学、関西育種基本区におけるスギ第二世代精英樹候補木の選抜—四高局50号、山育19号および西山大21号における実行結果—、林木育種センター年報(令和4年版)、120-123、2022. 12.

022 交雑(技術、交雑プロジェクト等を含む)

1. 中田了五、花岡創、大崎久司(道総研林産試)、村上了(道総研林産試)、安久津久(道総研林産試)、グイマツ雑種 F1 における繊維傾斜の全兄弟家系内個体間変動、日本木材学会大会研究発表要旨集、73:B14-01-1315、2023. 03.
2. 松永孝治、林木育種における人工交配に使用する花粉銃の作成、森林総合研究所研究報告、22(1):29-34、2023. 03.

023 変異(系統分類、倍数体を含む)

1. HIRAO Tomonori(平尾知士)、MATSUNAGA Koji(松永孝治)、SHIRASAWA Kenta(白澤健太・かずさ DNA 研究所)、Quantitative Trait Loci Analysis Based on High-Density Mapping of Single-Nucleotide Polymorphisms by Genotyping-by-Sequencing Against Pine Wilt Disease in Japanese Black Pine (*Pinus thunbergii*) (Genotyping-by-Sequencing による一塩基多型の高密度マッピングに基づくマツ材線虫病に対する QTL 解析)、*Frontiers in Plant Science*、850660、2022. 04.
2. 平尾知士、白澤健太(かずさ DNA 研究所)、平川英樹(かずさ DNA 研究所)、三嶋賢太郎、磯田圭哉、稲永路子、山田浩雄、コウヨウザンにおける有用遺伝子の探索に向けたゲノム情報の収集、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、11:P44、2022. 11.
3. 平尾知士、白澤健太(かずさ DNA 研究所)、藤澤義武、武津英太郎、平川英樹(かずさ DNA 研究所)、三嶋賢太郎、磯田圭哉、山田浩雄、GRAS-Di 技術を用いたコウヨウザンの連鎖地図構築と QTL 解析、日本森林学会大会学術講演集、134:F3、2023. 03.
4. 平尾知士、三嶋賢太郎、坪村美代子、永野聡一郎、ゲノム情報の活用で林木育種を加速する、森林科学、96:7-11、2022. 10.
5. 永野聡一郎、安田悠子、平尾知士、高島有哉、松下通也、三嶋賢太郎、井城泰一、石栗太(宇都宮大学農学部)、平岡裕一郎(静岡県立農林環境専門職大学生産環境経営学部)、高橋誠 遺伝的に多様なスギ精英樹交配家系集団を用いた成長・材質のゲノミック予測、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、11:P43、2022. 11.
6. 永野聡一郎、安田悠子、平尾知士、高島有哉、松下通也、三嶋賢太郎、井城泰一、石栗太(宇都宮大学農学部)、平岡裕一郎(静岡県立農林環境専門職大学生産環境経営学部)、高橋誠、若齢時評価

値は成長形質のゲノム予測精度を向上させるか：材質形質との比較、日本森林学会大会学術講演集、134:P-174、2023. 03.

7. 永野聡一郎、安田悠子、平尾知士、高島有哉、松下通也、三嶋賢太郎、井城泰一、石栗太(宇都宮大学農学部)、平岡裕一郎(静岡県立農林環境専門職大学生産環境経営学部)、高橋誠、DNA 情報からスギの表現型を予測するモデルの開発と改良、森林総合研究所研究成果選集 2022(令和4年版)、40-41、2022. 06.
8. 生方正俊、花岡創、福田陽子、中田了五、上田雄介、西岡直樹、加藤一隆、グイマツ種子の成熟時期の地域間変異、日本森林学会大会学術講演集、134:P-192、2023. 03.
9. 三嶋賢太郎、白澤健太(かずさ DNA 研究所)、平川英樹(かずさ DNA 研究所)、平尾知士、井城泰一、永野聡一郎、福田陽子、花岡創、坪村美代子、平岡裕一郎(静岡県立農林環境専門職大学)、田村明、高橋誠、カラマツ属のゲノムデータ基盤の構築、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、11:P39、2022. 11.
10. 三嶋賢太郎、平岡裕一郎(県立農林環境専門職大学)、井城泰一、平尾知士、高島有哉、永野聡一郎、福田陽子、田村明、高橋誠、カラマツ精英樹の材質形質および材質試験データを用いたゲノムワイドアソシエーション解析とゲノミック予測、日本木材学会大会研究発表要旨集、73:B15-P-03、2023. 03.
11. 三嶋賢太郎、井城泰一、平川英樹(かずさ DNA 研究所)、白澤健太(かずさ DNA 研究所)、福田陽子、福田有樹、宮本尚子、平尾知士、永野聡一郎、小長谷賢一、平岡裕一郎(静岡県立農林環境専門職大学)、田村明、倉本哲嗣、高橋誠、カラマツ雄花と雌花からの発現遺伝子の取得と着花に関わる遺伝子座の探索、日本森林学会大会学術講演集、134:F2、2023. 03.
12. 白澤健太(かずさ DNA 研究所)、三嶋賢太郎、平川英樹(かずさ DNA 研究所)、平尾知士、坪村美代子、永野聡一郎、井城泰一、磯部祥子(かずさ DNA 研究所)、高橋誠、Haplotype-resolved de novo genome assemblies of four coniferous tree species. (針葉樹種 4 種のゲノムアセンブリ)、bioRxiv、<https://doi.org/10.1101/2022.11.16.516598>、2022. 11.
13. 白澤健太(かずさ DNA 研究所)、三嶋賢太郎、平川英樹(かずさ DNA 研究所)、平尾知士、坪村美代子、永野聡一郎、井城泰一、磯部祥子(かずさ DNA 研究所)、高橋誠、ロングリード技術による針葉樹 4 種の全ゲノム解読、日本森林学会大会学術講演集、134:F1、2023. 03.
14. TAKATA Naoki(高田直樹)、TSUYAMA Taku(津山濯・宮崎大学)、NAGANO Soichiro(永野聡一郎)、BABA Kei'ichi(馬場啓一・京都大学)、YASUDA Yuko(安田悠子)、SAKAMOTO Shingo(坂本真吾・産業技術総合研究所)、MITSUDA Nobutaka(光田展隆・産業技術総合研究所)、TANIGUCHI Toru(谷口亨)、nst/snd multiple mutants raise new questions on xylem cell differentiation and secondary cell wall formation. (nst/snd 多重変異体が提起する木部分化と二次壁形成の新たな疑問)、The 20th IUFRO Tree Biotech & The 2nd Forest Tree Molecular Biology and Biotechnology Conference、Abstract: 76、2022. 07.
15. 高田直樹、栗野達也(京都大学)、Lam Pui Ying(京都大学)、鈴木史朗(京都大学)、飛松裕基(京都大学)、光田展隆(産業技術総合研究所)、永野聡一郎、山岸祐介(北海道大学)、谷口亨、二次壁に積層する多層構造を制御する因子の探索、日本植物学会大会講演要旨集、86:179、2022. 09.
16. 高田直樹、稲永路子、小葉植物およびシダ植物における厚壁細胞の壁層構造、日本木材学会大会研究発表要旨集、73:A14-02-1700、2023. 03.
17. 宗像典哲(宮崎大学)、津山濯(宮崎大学)、雉子谷佳男(宮崎大学)、高田直樹、坂本真吾(産業技術総合研究所)、光田展隆(産業技術総合研究所)、モウソウチクにおけるフェルラ酸転移酵素候補遺伝子 PeBAHD1 の発現制御に関する転写因子の探索、日本木材学会大会研究発表要旨集、

73:A14-02-1345、2023.03.

18. 森弘樹(岐阜大学)、高田直樹、中野浩平(岐阜大学)、鈴木史朗(岐阜大学)、交雑ポプラ由来 p-ヒドロキシベンゾイル-CoA:モノリグノール p-ヒドロキシベンゾイルトランスフェラーゼのカイネティクス解析、日本木材学会大会研究発表要旨集、73:L14-10-1430、2023.03.
19. 七里吉彦、ゲノム編集技術の林木育種への利用における現状・課題・展望、森林遺伝育種、11(4):181-186、2022.11.
20. NANASATO Yoshihiko(七里吉彦)、KONAGAYA Ken-ichi(小長谷賢一)、UENO Saneyoshi(上野真義)、ENDO Masaki(遠藤真咲・農研機構)、TANIGUCHI Toru(谷口亨)、Establishment of male sterile lines in Japanese cedar (*Cryptomeria japonica* D. Don) using CRISPR/Cas9(CRISPR/Cas9 を使ったスギの雄性不稔系統の作出)、The 20th IUFRO Tree Biotech & The 2nd Forest Tree Molecular Biology and Biotechnology Conference、Abstract: 121、2022.07.
21. 七里吉彦、小長谷賢一、上野真義、遠藤真咲(農研機構)、谷口亨、花粉形成関連遺伝子を標的としたゲノム編集による無花粉スギ (*Cryptomeria japonica* D. Don) の作出、日本植物バイオテクノロジー学会(堺)大会、39:発表番号 2Ca-02、2022.09.
22. 七里吉彦、難培養植物の形質転換系及びゲノム編集系の開発、日本植物バイオテクノロジー学会(堺)大会、39:発表番号 A-3(日本植物バイオテクノロジー学会奨励賞受賞)、2022.09.
23. 七里吉彦、小長谷賢一、上野真義、遠藤真咲(農研機構)、谷口亨、ゲノム編集によるスギ (*Cryptomeria japonica* D. Don) の無花粉化、日本農芸化学学会大会(2023)、発表番号未定、2023.03.
24. 長谷川輝翔(鳥取大学)、七里吉彦、小長谷賢一、田中淑乃(鳥取大学)、河野強(鳥取大学)、遠藤圭太、川邊陽文(森林総研 PD)、岩崎崇(鳥取大学)、ポリヒスチジンペプチドを利用した DNA 書き換え技術の開発、日本ペプチド学会若手ペプチド夏の勉強会、54:発表番号 P-4、2022.08.
25. 佐藤良介、小長谷賢一、高田直樹、スギにおける異所的な木部細胞誘導システムの開発、日本木材学会大会研究発表要旨集、73:A14-02-1715、2023.03.
26. 佐藤良介、小長谷賢一、高田直樹、針葉樹における異所的な木部細胞誘導システムの開発、日本植物生理学会年会講演要旨集、64:ページ未定、2023.03.
27. 佐藤良介、榊原光(中部大学)、水口慎太郎(中部大学)、御堂育子(中部大学)、鈴木孝征(中部大学)、堀部貴紀(中部大学)、柘植尚志(中部大学)、且原真木(岡山大学)、前島正義(中部大学)、サボテンの高温・乾燥耐性を支えるアクアポリンの組織分布と生理機能の解明、日本植物生理学会年会講演要旨集、64:ページ未定、2023.03.
28. 朝比奈雅志(帝京大学)、佐藤良介、松岡啓太(帝京大学)、坂田匠(帝京大学)、田川実樹(帝京大学)、大山諒(帝京大学)、柴田恭美(帝京大学)、近藤侑貴(神戸大学)、佐藤忍(筑波大学)、異所的な維管束細胞分化に関与するシロイヌナズナ ANAC・DOF 転写因子の解析、植物化学調節学会大会講演要旨集、57:016、2022.11.
29. 朝比奈雅志(帝京大学)、佐藤良介、松岡啓太(帝京大学)、田川実樹(帝京大学)、大山諒(帝京大学)、柴田恭美(帝京大学)、近藤侑貴(神戸大学)、佐藤忍(筑波大学)、シロイヌナズナの異所的な維管束細胞分化に対する ANAC・DOF 転写因子の関与、日本植物学会大会講演要旨集、86:3aAI11、2022.09.
30. SATO Ryosuke(佐藤良介)、NANASATO Yoshihiko(七里吉彦)、NAGANO Soichiro(永野聡一郎)、FUKATSU Eitaro(武津英太郎)、TAKATA Naoki(高田直樹)、A method for determining genome editing patterns in T0 generation tree using Oxford Nanopore Technologies sequencing. (オックスフォードナノポアテクノロジーを用いたT0世代樹木のゲノム編集パターンの決定手法)、The 20th IUFRO Tree Biotech & the 2nd Forest Tree Molecular Biology and Biotechnology Conference、

35、2022. 07.

31. 佐藤良介、七里吉彦、永野聡一郎、武津英太郎、高田直樹、ナノポアシークエンサーを用いたゲノム編集パターンの解析手法の最適化、日本ゲノム編集学会京都大会要旨集、7:P2-8、2022. 06.
32. 佐藤良介、小長谷賢一、高田直樹、スギを用いた異所的な二次木部細胞誘導系の開発、細胞壁研究者ネットワーク・第16回定例研究会、A8、2022. 10.
33. 佐藤良介、異所的な維管束細胞誘導システムを用いた樹木の細胞壁形成過程で機能する分子機構へのアプローチ、林木育種情報、40:8、2022. 07.
34. 川邊陽文(森林総研PD)、七里吉彦、小長谷賢一、上野真義、遠藤真咲(農研機構)、谷口亨、塩基編集技術によるALS遺伝子改変スギ(*Cryptomeria japonica* D. Don) 個体系統の除草剤耐性能の解析、日本植物バイオテクノロジー学会(堺)大会、39:発表番号2Ca-03、2022. 09.
35. 北田早貴(奈良先端大)、板谷知健(NuProtein)、多田裕昭(NuProtein)、南賢尚(NuProtein)、川邊陽文(森林総研PD)、加藤壮英(奈良先端大)、山崎将太郎(奈良先端大)、加藤晃(奈良先端大)、コムギ胚芽無細胞翻訳系における翻訳エンハンサーの同定、日本植物バイオテクノロジー学会(堺)大会、39:発表番号1Ca-09、2022. 09.

03 樹種、品種の選択と植栽試験

031 次代検定(育種効果を含む)

1. 松下通也、長谷部辰高、高橋優介、坪村美代子、木村恵、大平峰子、田村明、小川広大、関東育種基本区におけるヒノキ第二世代精英樹候補木の選抜—関長19号、関長47号、関東58号における実行結果—、森林総合研究所林木育種センター年報(2022)、114-116、2022. 12.
2. 松下通也、長谷部辰高、高橋優介、坪村美代子、木村恵、大平峰子、田村明、小川広大、関東育種基本区におけるスギ第二世代精英樹候補木の選抜—関前60号、関前66号、関東66号、関東67号、関東71号および関長38号、関長43号における実行結果—、森林総合研究所林木育種センター年報(2022)、117-119、2022. 12.
3. 花岡創、40年次に優勢であったトドマツ家系の成長曲線の特徴、日本森林学会大会学術講演集、134:P-097、2023. 03.
4. 米澤美咲(道総研林業試験場)、石塚航(道総研林業試験場)、今博計(道総研林業試験場)、佐藤弘和(道総研林業試験場)、花岡創、福田陽子、辻山善洋、玉城聡、1990年造成のアカエゾマツ次代検定林における優良個体の選抜、北海道林業試験場報告、59:ページ未定、2023. 03.
5. 福田有樹、倉原雄二、岩泉正和、松永順、松永孝治、久保田正裕、九州育種基本区における第二世代精英樹候補木の選抜—九熊本第154号、九熊本第155号(スギ)における実行結果、林木育種センター年報(令和4年版)、124-127、2022. 12.

033 産地試験

1. 石塚航(道総研林業試験場)、米澤美咲(道総研林業試験場)、花岡創、中田了五、生方正俊、トドマツの長期産地試験地を用いたホームサイトアドバンテージの検証、日本森林学会大会学術講演集、134:P-181、2023. 03.
2. 三木直子(岡山大農)、長川遥香(岡山大農)、久村健人(岡山大農)、那須仁弥、岩泉正和、アカマツの生理生態的形質に対する産地の効果と植栽地の効果、日本森林学会大会学術講演集、134:G8、2023. 03.
3. 宮本尚子、エリートツリー交配家系の植栽試験の取組—岩手県住田町との共同研究を開始—、東北の林木育種、231:ページ未定、2023. 02.

4. 宮本尚子、エリートツリー交配家系試験地の設定ー岩手県気仙郡住田町との共同研究ー、みどりの東北、1月号:8、2023.01.
5. 岩泉正和、栗田学、那須仁弥、木村恵、磯田圭哉、広域産地試験の九州試験地における国内アカマツ集団の雌雄開花の早晩性、日本森林学会大会学術講演集、134:P-180、2023.03.

04 採種園、結実促進、その他有性繁殖

041 採種園関係

1. 田村明、ヒノキミニチュア採種園の管理について、林業いばらき、783:9、2022.10.
2. 田村明、日本の林木育種の過去・現在・未来：(1)カラマツー6 カラマツ類の結実特性と採種園、森林遺伝育種、11(3):118-123、2022.07.
3. 松下通也、カラマツ採種木への施業によるその後の樹体への影、カラマツ育種技術連絡会 ML マガジン、11号、2022.09.
4. 松下通也、環状剥皮処理の樹体への影響とその後の回復、特定母樹普及促進会(2022)、#2-(3)、2022.07.
5. 加藤一隆、エゾマツ採種園の着花状況ー4年間の雄花及び雌花の着花数についてー、日本森林学会大会学術講演集、134:P-194、2023.03.
6. 花岡創、UAVとAIを活用した採種園着果情報の提供、北の森だより、28:10-11、2022.07.
7. 那須仁弥、ユリノキ優良個体によるモデル採種園の造成、みどりの東北218(2022.5)、8、2022.05.
8. 三浦真弘、大城浩司、宮下久哉、高島有哉、磯田圭哉、竹田宣明、ヒノキミニチュア採種園の管理技術の検討、日本森林学会大会学術講演集、134:P-193、2023.03.
9. 松永孝治、岩泉正和、久保田正裕、原亮太郎(九州大学生物資源環境)、北嶋諒太郎(九州大学生物資源環境)、細川貴弘(九州大学理学研究院)、渡辺敦史(九州大学大学院農学研究院)、久米篤(九州大学農学研究院)、マツヘリカメムシがクロマツ種子生産に及ぼす潜在的な影響、日本森林学会大会学術講演集、134:S1-1、2023.03.
10. 久米篤(九州大学大学院農学研究院)、北嶋諒太郎(九州大学生物資源環境)、松田修(九州大学大学院理学研究院)、松永孝治、原亮太郎(九州大学生物資源環境)、渡辺敦史(九州大学大学院農学研究院)、マツヘリカメムシの春の行動様式、日本森林学会大会学術講演集、134:S1-5、2023.03.
11. 原亮太郎(九州大学生物資源環境)、松永孝治、渡辺敦史(九州大学農学研究院)、細川貴弘(九州大学理学研究院)、久米篤(九州大学農学研究院)、熊本県合志市におけるマツヘリカメムシの個体群動態、日本森林学会大会学術講演集、134:S1-4、2023.03.
12. 岩泉正和、三浦真弘、片桐智之(岡山県農林水産部)、吉岡寿((元)広島県立総合技術研究所林業技術センター)、大池航史(山口県下関農林事務所)、杉本博之(山口県農林水産部)、マツノザイセンチュウ抵抗性アカマツ6採種園産種苗の抵抗性に対する母樹系統と園齢に伴う花粉親の効果、日本森林学会誌、104(3):162-169、2022.06.

042 着花促進、種子生産性等

1. 坪村美代子、白澤健太(かずさDNA研究所)、三嶋賢太郎、ヒノキ雄花・雌花発達過程の観察、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、11:P34、2022.11.
2. 坪村美代子、木村恵、田村明、効率的な交配手法開発に向けたヒノキの雄花・雌花開花フェノロジー評価、日本森林学会大会学術講演集、134:P-179、2023.03.
3. 宮本尚子、那須仁弥、永野聡一郎、竹田宣明、スギ溶液授粉の実効性の検証、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、11:P30、2022.11.

4. 三浦真弘、斉藤雅一(和歌山県林業試験場)、新原一海(岡山県森林研究所)、西原寿明(愛媛県農林水産研究所林業研究センター)、田口裕人(愛媛県農林水産研究所林業研究センター)、ヒノキ特定母樹から少花粉品種を開発する取り組み、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、11:P32、2022. 11.
5. 宮下久哉、高島有哉、三浦真弘、若齢時におけるスギ少花粉品種のジベレリン処理による雄花着生性、日本森林学会大会学術講演集、134:P-190、2023. 03.

05 採穂園、その他無性繁殖

051 さし木、つぎ木、発根性等

1. 伊藤哲(宮崎大学)、徳田楓(宮崎大学)、平田令子(宮崎大学)、栗田学、長倉良守(長倉樹苗園)、落下実験によるスギ挿し木コンテナ苗の根鉢強度の評価ー根系による根鉢表面被覆率を用いた検討ー、日本森林学会誌、104(2):106-110、2022. 04.
2. 伊藤哲(宮崎大学)、徳田楓(宮崎大学)、平田令子(宮崎大学)、栗田学、長倉良守(長倉樹苗園)、スギ挿し木ペーパーポット苗とコンテナ苗の根鉢強度の比較、日本森林学会誌、105(1):11-15、2023. 01.
3. 村田淳之介(九州大学)、栗田学、田村美帆(九州大学)、渡辺敦史(九州大学)、スギ不定根形成に対する光量の影響、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、11:P19、2022. 11.
4. 福田陽子、松田修(九州大学)、トドマツ種子の発芽率向上に資する技術開発～精選及び低温湿層処理の最適化～、北海道森林技術・支援センター技術開発成果発表会(令和4年度)、:2、2022. 10.
5. 福田陽子、西岡直樹、辻山善洋、千葉信隆、田村明、黒沼幸樹、カラマツ属優良クローンの増殖効率向上のための採穂台木の育成方法の検討、北方森林学会大会研究発表プログラム、71:P-21、2022. 11.
6. 福田陽子、西岡直樹、辻山善洋、千葉信隆、田村明、黒沼幸樹、カラマツ属優良クローンの増殖効率向上のための採穂台木の育成方法の検討、北方森林研究、71:75-78、2023. 02.
7. 井城泰一、カラマツのつぎ木増殖手法について、東北の林木育種、230:3、2022. 07.
8. 井城泰一、カラマツ原種増産に向けた効率的なつぎ木方法の開発、岩手の林業、784(2023. 3)、6-7、2023. 03.
9. 河合慶恵、河合貴之、岩泉正和、スギ幼齢木から増殖したさし木苗の発根性および成長の実生苗との比較、応用森林学会大会研究発表要旨集、73:15、2022. 11.
10. 松永孝治、大平峰子、倉原雄二、岩泉正和、福田有樹、久保田正裕、クロマツ採穂台木の樹齢がさし木発根性に及ぼす影響、九州森林学会大会発表プログラム、78:505、2022. 10.
11. 福田有樹、栗田学、渡辺敦史(九州大学)、スギにおけるさし木発根部位に対するさし付け深さおよびワセリン塗布による影響、九州森林学会大会発表プログラム、78:501、2022. 10.
12. 福田有樹、栗田学、田村美帆(九州大学)、渡辺敦史(九州大学)、スギさし木発根過程における遺伝子発現変動、日本森林学会大会学術講演集、134:P-173、2023. 03.

052 組織培養

1. 土井巖(東京農工大学)、永田ひかる(東京農工大学)、山岸祐介(住友林業)、中田了五、半智史(東京農工大学)、船田良(東京農工大学)、スギ培養細胞を用いた管状要素誘導、日本木材学会大会研究発表要旨集、73:A15-P-02、2023. 03.
2. 河村健太(東京農工大学)、永田ひかる(東京農工大学)、柳田彬宏(東京農工大学)、土井巖(東京農工大学)、中田了五、半智史(東京農工大学)、船田良(東京農工大学)、組織培養によるヒノキ植物体再生に関する研究、日本木材学会大会研究発表要旨集、73:A15-P-01、2023. 03.

3. 谷口亨、小長谷賢一、山口秀太郎、薬用のつる性木本植物カギカズラの組織培養によるクローン化とクローン苗の植栽、関東森林学会大会講演要旨集、12:育種5、2022.10.
4. 谷口亨、小長谷賢一、野村茂広(三重農研)、漢方薬原料「カギカズラ」の苗木の増やし方の改善と葉からお茶を作る試み、森林総合研究所研究成果選集2022(令和4年版)、38-39、2022.06.
5. 小長谷賢一、薬用樹木「カギカズラ」の組織培養による苗木増産技術、林業いばらき、777:9、2022.04.
6. 小長谷賢一、三嶋賢太郎、井城泰一、福田陽子、谷口亨、カラマツにおける植物体再生系と培養細胞の凍結保存法の確立、日本植物バイオテクノロジー学会(堺)大会、39:発表番号2Da-01、2022.09.
7. 小長谷賢一、遠藤圭太、谷口亨、薬用樹木カギカズラの組織培養によるクローン苗増産技術の開発、日本森林学会大会学術講演集、134:P-196、2023.03.

06 育苗・その他形質記録

061 育苗

1. 大平峰子、コンテナ苗による集団林造成、林木育種情報、41:2、2022.11.
2. 加藤一隆、トドマツの育苗試験ー第二世代精英樹候補木から採種した種子の2成長期後の生育状況ー、北方森林学会大会研究発表プログラム、71:1、2022.11.
3. 福田陽子、三嶋賢太郎、花岡創、平尾知士、永野聡一郎、核SNP解析によるグイマツ育種母材の構造解析とフェノロジーの系統間比較、日本森林学会大会学術講演集、134:P-177、2023.03.
4. 宮本尚子、松田修(九州大学大学院理学研究院)、小川健一(岡山県農林水産総合センター生物科学研究所)、井城泰一、笹島芳信、寒冷地におけるスギのコンテナ育苗技術と成長特性、日本森林学会大会学術講演集、134:F10、2023.03.
5. 松永孝治、栗田学、岩泉正和、福田有樹、久保田正裕、大平峰子、木村恵、山野邊太郎、九州地域におけるスギ実生コンテナ苗の育成に被陰処理が及ぼす影響、九州森林研究、76:103-106、2023.03.

07 樹木園、緑化樹及び広葉樹の育種

072 広葉樹の育種

1. 井城泰一、中田了五、山田浩雄、複数の方法で冷蔵保存したケヤキ種子の発芽率、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、11:P04、2022.11.
2. 小野田雄介(京都大学)、三浦真弘、岩泉正和、山田浩雄、樹形の遺伝的変異が成長と個体間競争に及ぼす影響:クリを使った密度操作実験、日本生態学会大会講演要旨集、70:P2-132、2023.03.
3. 宮下久哉、高島有哉、河合貴之、宮島盾二、堀口和真、関西育種基本区において選抜したセンダン優良木の系統間における成長の比較、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、11:P26、2022.11.
4. 宮下久哉、早生広葉樹センダンの育種ー試験地の設定ー、関西育種場だより、100:1、2023.03.

08 森林保護技術と被害様式

081 気象害抵抗性育種(凍害、寒風害、雪害等)

1. 能勢美峰、遠藤圭太、大平峰子、田村明、分子レベルからみたスギの耐凍性の季節変化、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、11:P35、2022.11.
2. 能勢美峰、遠藤圭太、大平峰子、田村明、小長谷賢一、栗田学、遺伝子発現解析から見たスギの越冬、日本森林学会大会学術講演集、134:P-172、2023.03.

082 病虫害抵抗性育種(昆虫害、病害等)

1. 井城泰一、宮本尚子、東北育基本区で開発されたザイセンチュウ抵抗性アカマツおよびクロマツの抵抗性評価、東北森林科学会大会講演要旨集、27:ポスター発表 28、2022. 11.
2. 井城泰一、岩泉正和、松永孝治、共通の抵抗性クロマツ実生を用いた複数箇所のマツノザイセンチュウ接種試験、日本森林学会大会学術講演集、134:P-187、2023. 03.
3. 高島有哉、三浦真弘、宮下久哉、河合慶恵、磯田圭哉、岩泉正和、UAV 可視画像を用いたマツノザイセンチュウ接種苗木の抵抗性評価手法の検討、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、11:P22、2022. 11.

083 耐やせ地性等

1. 能勢美峰、遺伝子発現からみたスギのフェノロジー制御機構、日本木材学会 組織と材質研究会 冬季シンポジウム(2022)、:4、2022. 12.
2. 能勢美峰、小長谷賢一、栗田学、スギ CjGI 遺伝子過剰発現体におけるトランスクリプトームの年周性、日本植物生理学会年会講演要旨集、64:ページ未定、2023. 03.
3. 檀浦正子(京大農)、能勢美峰、福田有樹、三嶋賢太郎、松下通也、南尊大(京大農)、田邊智子(京大農)、Daniel Epron(京大農)、小南裕志、高梨聡、香川聡、13C パルスラベリングを用いたスギ 2 品種の樹体内炭素配分、日本森林学会大会学術講演集、134:P-189、2023. 03.
4. 能勢美峰、花岡創、武津英太郎、栗田学、三浦真弘、平岡裕一郎(静岡県立農林環境専門職大学)、井城泰一、千吉良治、三嶋賢太郎、高橋誠、渡辺敦史(九大農)、Changes in annual transcriptome dynamics of a clone of Japanese cedar (*Cryptomeria japonica* D. Don) planted under different climate conditions. (異なる気象環境下に植栽したスギクローンにおけるトランスクリプトームの年周性の違い)、PLoS ONE、18(2):e0277797、2023. 02.

09 育種材料の特性

091 総合特性(成長、形態等)

1. 安田悠子、被陰環境下における樹木の樹幹形成の抑制、木科学情報、29(2):24-29、2022. 10.
2. 河合慶恵、岩泉正和、笹島芳信、三浦真弘、高島有哉、久保田正裕、五十嵐秀一(愛媛大院)、市栄智明(高知大)、池田武文(京都府大)、スギの幼苗段階における水分生理特性および形態的特性と成長・生存との関連性を経時的に評価する試み、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、11:P37、2022. 11.
3. 河合慶恵、無花粉スギの品種開発について、関西育種場だより、100:2、2023. 03.
4. 大塚次郎、さし木コウヨウザンの植栽初期における生育状況の系統比較、低コストモデル実証団地成果集【Hゾーン】12 <https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/policy/business/jigyuu/index.html#jisedai>、2022. 4.
5. 大塚次郎、園田美和(熊本県林研センター)、横尾謙一郎(熊本県宇城地域振興局)、久保田正裕、栗田学、後藤誠也(熊本森林管理署)、松永孝治、倉原雄二、福田有樹、岩泉正和、松永順、倉本哲嗣、スギ特定母樹指定系統さし木コンテナ苗の植栽後3年間の形状比と樹高成長の関係、九州森林学会大会発表プログラム、78:503、2022. 10.
6. 大塚次郎、園田美和(熊本県林研センター)、横尾謙一郎(熊本県宇城地域振興局)、久保田正裕、栗田学、松永孝治、倉原雄二、福田有樹、岩泉正和、松永順、倉本哲嗣、スギ特定母樹指定系統さし木コンテナ苗の形状比と樹高成長の関係、九州森林研究、76:43-47、2023. 03.

092 成長

1. 高橋優介、松下通也、田村明、大平峰子、高橋誠、検定林データから明らかにする気候要因がヒノキの成長形質に及ぼす影響とその交互作用、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、11:P14、2022. 11.
2. 那須仁弥、岩泉正和、千吉良治、木村恵、花岡創、磯田圭哉、アカマツ 10 産地の 2 年生苗を用いた全国 5 試験地での年間成長の地理的変異、日本森林学会大会学術講演集、134:P-182、2023. 03.

093 材質(心材色を含む)

1. Shi Hu(胡石、東京農工大学)、KAMIMURA Naofumi(上村直史・長岡科学技術大学院大学)、SAKAMOTO Shingo(坂本真吾・産業技術総合研究所)、NAGANO Soichiro(永野聡一郎)、TAKATA Naoki(高田直樹)、Sarah Liu(ウィスコンシン大学)、Geert Goeminne(ゲント大学、VIB Center for Plant Systems Biology)、Ruben Vanholme(ゲント大学、VIB Center for Plant Systems Biology)、UESUGI Mikiko(上杉幹子・東京農工大学)、YAMAMOTO Masanobu(山本雅信・東京農工大学)、HISHIYAMA Shojiro(菱山正二郎)、Hoon Kim(ウィスコンシン大学)、Wout Boerjan(ゲント大学、VIB Center for Plant Systems Biology)、John Ralph(ウィスコンシン大学)、MASAI Eiji(政井英司・長岡科学技術大学院大学)、MITSUDA Nobutaka(光田展隆・産業技術総合研究所)、KAJITA Shinya(梶田真也・東京農工大学)、Rerouting of the lignin biosynthetic pathway by inhibition of cytosolic shikimate recycling in transgenic hybrid aspen. (遺伝子組み換え交雑ポプラにおける細胞質シキミ酸再生阻害によるリグニン生合成経路の迂回反応)、Plant Journal、110:358-376、2022. 04.
2. 安田悠子、井城泰一、高島有哉、三嶋賢太郎、高橋誠、平岡裕一郎(静岡県立農林環境専門職大学)、スギにおける高容積密度系統の早期選抜の可能性、日本木材学会大会研究発表要旨集、73:B14-01-1400、2023. 03.
3. 田村明、エリートツリーの材質調査について、林木育種情報、41:3、2022. 11.
4. 高橋優介、石栗太(宇都宮大学)、根津郁実(宇都宮大学)、遠藤良太(千葉大学)、小林沙紀(千葉県森林研究所)、田邊純(千葉大学)、松下通也、大島潤一(宇都宮大学)、横田信三(宇都宮大学)、Radial variations of broad-sense heritability in wood properties and classification of load-deflection curves in static bending for six half-sib families of *Chamaecyparis obtusa*. (ヒノキの 6 半家系の木材性質における広義の遺伝率の半径方向変動および静的曲げ試験における荷重たわみ曲線の分類)、Journal of Wood Science、68:24、2022. 04.
5. TAKAHASHI Yusuke(高橋優介)、ISHIGURI Futoshi(石栗太・宇都宮大学)、NEZU Ikumi(根津郁実・宇都宮大学)、ENDO Ryota(遠藤良太・千葉大学、千葉農林総合研究センター森林研究所)、KOBAYASHI Saki(小林沙希・千葉農林総合研究センター森林研究所)、TANABE Jun(田邊純・千葉大学)、OTSUKA Kouhei(大塚紘平・栃木県林業センター)、OHSHIMA Jyunichi(大島潤一・宇都宮大学)、YOKOTA Shinso(横田信三・宇都宮大学)、Sawn-timber quality of six half-sib families of hinoki cypress (*Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl.). (ヒノキの自然交配家系 6 家系の板材性質)、Wood Material Science & Engineering、<https://doi.org/10.1080/17480272.2022.2113139>、2022. 08.
6. TAKAHASHI Yusuke(高橋優介)、ISHIGURI Futoshi(石栗太・宇都宮大学)、TAKASHIMA Yuya(高島有哉)、HIRAOKA Yuichiro(平岡裕一郎・静岡県立農林環境専門職大学)、IKI Taiichi(井城泰一)、MIYASHITA Hisaya(宮下久哉)、MATSUSHITA Michinari(松下通也)、OHSHIMA Jyunichi(大島潤一・宇都宮大学)、YOKOTA Shinso(横田信三・宇都宮大学)、Inheritance of wood properties and their radial variations in full-sib families of 36-year-old Japanese larch (*Larix kaempferi*

(Lamb.) Carr.) (36 年生ニホンカラマツの人工交配家系における木材性質の遺伝性とそれらの半径方向変動)、Annals of Forest Science、<https://doi.org/10.1186/s13595-022-01168-2>、2023. 01.

7. 高橋優介、石栗太(宇都宮大学)、根津郁実(宇都宮大学)、松下通也、大平峰子、田村明、高橋誠、大島潤一(宇都宮大学)、横田信三(宇都宮大学)、2つの検定林に植栽されたヒノキ 36 家系における容積密度の半径方向変動パターンの家系間変異、日本木材学会大会研究発表要旨集、73:B15-P-06、2023. 03.
8. 武津英太郎、倉原雄二、栗田学、久保田正裕、スギ壮齢林における成長・樹型と遺伝的効果による応力波伝播速度の予測モデルの検討、日本木材学会大会研究発表要旨集、73:B14-01-1345、2023. 03.
9. 武津英太郎、カラマツにおける材質形質の遺伝性の解明と育種改良に関する研究、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、11:4(森林遺伝育種学会賞)、2022. 11.
10. 糸田川千畝(東京農工大学)、深見泰河(東京農工大学)、中田了五、高田直樹、栗野達也(京都大学)、船田良(東京農工大学)、半智史(東京農工大学)、ドロノキ放射柔細胞におけるプロテアーゼ RD21 の組織内局在の季節変動、日本木材学会大会研究発表要旨集、73:A14-02-1045、2023. 03.
11. 宮下久哉、高島有哉、三浦真弘、四国増殖保存園に設定されたヒノキ遺伝子保存林後継林分における材質特性、日本木材学会大会研究発表要旨集、73:B15-P-05、2023. 03.
12. 高島有哉、安田悠子、松下通也、武津英太郎、三嶋賢太郎、高橋誠、スギ第 1 世代精英樹における年輪内密度変動の非線形モデリングおよび系統評価、日本木材学会大会研究発表要旨集、73:B15-P-10、2023. 03.
13. 倉原雄二、松永孝治、岩泉正和、福田有樹、久保田正裕、10 年生スギクローンの心材含水率評価、九州森林学会大会発表プログラム、78:507、2022. 10.
14. 倉原雄二、松永孝治、スギ心材含水率と成長形質の関係、日本木材学会大会研究発表要旨集、73:B15-P-08、2023. 03.
15. 倉原雄二、松永孝治、岩泉正和、福田有樹、久保田正裕、10 年生スギクローンの心材含水率評価、九州森林研究、76:99-102、2023. 03.
16. 岩泉正和、倉原雄二、福田有樹、松永孝治、高島有哉、松下通也、武津英太郎、倉本哲嗣、九州スギ精英樹クローンにおける応力波伝播速度とピロディン貫入量の植栽後年次間での比較と早期評価の検討、九州森林学会大会発表プログラム、78:504、2022. 10.

095 その他

1. 武津英太郎、倉原雄二、松永孝治、平岡裕一郎(静岡県立農林環境専門職大学)、九州育種基本区のスギ人工交配実生集団における樹冠形状の遺伝性、日本森林学会大会学術講演集、134:P-184、2023. 03.
2. 河合慶恵、篠崎夕子、高島有哉、三浦真弘、宮下久哉、磯田圭哉、スギ精英樹の生存パターンに影響する要因の検証、森林・林業交流研究発表集録(令和 4 年度)(近畿中国森林管理局)、印刷中、2023. 03. 予定
3. 河合慶恵、岩泉正和、久保田正裕、笹島芳信、大谷美穂(和歌山県林試)、斉藤雅一(和歌山県林試)、五十嵐秀一(愛媛大院)、市栄智明(高知大)、池田武文(京都府大)、三箇所のスギ壮齢検定林における冬季水分生理特性の幼老相関、日本森林学会大会学術講演集、134:P-183、2023. 03.
4. 岩泉正和、九州育種基本区における無花粉スギ育種の推進について、九州育種場だより、45:3、2022. 07.

5. 岩泉正和、武津英太郎、栗田学、福田有樹、松永孝治、倉原雄二、久保田正裕、九州の無花粉遺伝子保有スギ交配家系における無花粉遺伝子の保有度と成長特性との関連性、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、11:P41、2022. 11.
6. 山本有菜(名古屋大学)、谷口亨、伊藤哲男(イトウグリーン)、今井貴規(名古屋大学)、日本産薬用植物カギカズラ(*Uncaria rhynchophylla*)抽出成分のメタボローム解析:組織部位間差および季節間差、樹木抽出成分研究交流会要旨集、5:一般講演 1、2022. 09.
7. 山本有菜(名古屋大学)、谷口亨、伊藤哲男(イトウグリーン)、今井貴規(名古屋大学)、日本産薬用植物カギカズラ(*Uncaria rhynchophylla*)における抽出成分の組織部位間差および季節間差:メタボローム解析、日本木材学会中部支部大会講演要旨集(2022)、:27-28(B04)、2022. 10.
8. GONG Qinyue(宮欽樂・名古屋大学)、AOKI Dan(青木弾・名古屋大学)、MATSUSHITA Yasuyuki(松下泰之・東京農工大学)、YOSHIDA Masato(吉田正人・名古屋大学)、TANIGUCHI Toru(谷口亨)、ENDO H Keita(遠藤圭太)、FUKUSHIMA Kazuhiko(福島和彦・名古屋大学)、Microscopic Distribution of Eight Alkaloids in Freeze-fixed Stems of *Phellodendron amurense*(凍結保存したキハダの茎におけるアルカロイド7種の微視的分布)、京都生体質量分析研究会国際シンポジウム・国際質量分析イメージングシンポジウム 2023 京都、6:ページ未定(ポスター発表)、2023. 01.
9. GONG Qinyue(宮欽樂・名古屋大学)、AOKI Dan(青木弾・名古屋大学)、MATSUSHITA Yasuyuki(松下泰之・東京農工大学)、YOSHIDA Masato(吉田正人・名古屋大学)、TANIGUCHI Toru(谷口亨)、ENDO H Keita(遠藤圭太)、FUKUSHIMA Kazuhiko(福島和彦・名古屋大学)、Alkaloid Distribution in the Freeze-fixed Stems of *Phellodendron amurense*(凍結保存したキハダの茎におけるアルカロイドの分布)、日本木材学会大会研究発表要旨集、73:M14-05-0915、2023. 03.
10. 山本有菜(名古屋大学)、原規公(名古屋大学)、伊藤哲男(イトウグリーン)、谷口亨、今井貴規(名古屋大学)、日本産カギカズラ(*Uncaria rhynchophylla*)クローンにおける薬効成分アルカロイドおよびその他有成分の組織部位による含有量の違い、木材学会誌、69(1):14-22、2023. 01.

10 遺伝資源

101 収集、保存

1. 木村恵、小笠原諸島に生育する樹木種子の乾燥耐性、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、11:P02、2022. 11.
2. 木村恵、小笠原諸島に生育する樹木の種子は長期保存が可能か、日本生態学会大会講演要旨集、70:P2-111、2023. 03.
3. 武津英太郎、長谷部辰高、花岡創、深層学習を用いた花粉の発芽検定の効率化の検討、関東森林学会大会講演要旨集、12:14、2022. 10.
4. ENDO H Keita(遠藤圭太)、HANAOKA So(花岡創)、MATSUSHITA Michinari(松下通也)、UBUKATA Masatoshi(生方正俊)、YAMADA Hiroo(山田浩雄)、Ex situ conservation of birch trees by cryopreservation of dormant buds adapted to subzero temperatures by extracellular freezing. (細胞外凍結する冬芽の凍結保存によるカンバ類樹木の生息域外保存)、New Forests、<https://doi.org/10.1007/s11056-022-09934-w>、2022. 08.
5. 遠藤圭太、花岡創、松下通也、生方正俊、山田浩雄、越冬メカニズムを利用したカバノキ属樹木の冬芽の凍結保存、Cryopreservation conference2022 講演要旨集、26 頁、2022. 11.
6. 遠藤圭太、小長谷賢一、松下通也、谷口亨、薬用樹木カギカズラの種子の生産と凍結保存、Cryopreservation conference2022 講演要旨集、37 頁、2022. 11.
7. 那須仁弥、宮本尚子、中村隆史、伐開地に分布拡大したユリノキの繁殖状況、森林遺伝育種学会

102 分類、同定、評価

1. 山田浩雄、近藤禎二(森林総研非常勤職員)、磯田圭哉、生方正俊、コウヨウザンに適用可能な単木材積式の検討、日本森林学会大会学術講演集、134:P-111、2023. 03.
2. INANAGA Michiko(稲永路子)、HIRAO Tomonori(平尾知士)、ISODA Keiya(磯田圭哉)、ORIBE Yuichiro(織部雄一郎)、YAMADA Hiroo(山田浩雄)、Current status of Amur Corktree genetic resource in Japan. (日本におけるキハダの遺伝資源の現状)、13th International Congress of Ecology、
<https://portalapp.symporg.eventsair.com/VirtualAttendeePortal/intecol-2022/intecol2022?>、2022. 08.
3. 稲永路子、武津英太郎、平尾知士、織部雄一郎、磯田圭哉、山田浩雄、SSR マーカーによるキハダの系統地理学的解析、日本森林学会大会学術講演集、134:P-176、2023. 03.
4. 浅鷗ほのか(北海道大学大学院農学院)、稲永路子、荒川圭太(北海道大学大学院農学研究院)、低温馴化によるキハダの可溶性糖の組成変化、低温生物工学会、年会プログラム(一般公演)、67:5、2022. 06.
5. ASAJIMA Honoka(浅鷗ほのか・北海道大学大学院農学院)、INANAGA Michiko(稲永路子)、ARAKAWA Keita(荒川圭太・北海道大学大学院農学研究院)、Soluble sugar accumulation in *Phellodendron amurense* during seasonal cold acclimation. (季節的な低温馴化の間に起こるキハダの可溶性糖蓄積)、25th SNU-HU JOINT SYMPOSIUM SATELLITE SESSION:11、2022. 11.
6. 玉城聡、磯田圭哉、木村恵、井鷲裕司(京都大学)、比留間美帆(東京都)、塩沢空也(東京都)、熊本舞子(東京都)、井上正隆(東京都)、田谷以生(東京都)、藤澤実樹(東京都)、右田裕基(東京都)、希少樹種オガサワラグワの弟島自生地の実生のSSR マーカーによる親子解析、日本森林学会大会学術講演集、134:P-175、2023. 03.
7. 井城泰一、三嶋賢太郎、東北育種基本区におけるカラマツ精英樹実生後代の立木材質の遺伝性、日本木材学会大会研究発表要旨集、73:B15-P-04、2023. 03.
8. 田端雅進(森林総研東北支所)、井城泰一、田村美帆(九州大学)、渡辺敦史(九州大学)、漆滲出長と成長・葉特性を用いた漆滲出量の多いクロウンの簡易判別、日本森林学会誌 No. 105 Vol. 3(2023. 3) 87-95、2023. 03.
9. 三嶋賢太郎、平川英樹(かざさ DNA 研究所)、井城泰一、福田陽子、平尾知士、田村明、高橋誠、Comprehensive collection of genes and comparative analysis of full-length transcriptome sequences from Japanese larch (*Larix kaempferi*) and Kuril larch (*Larix gmelinii* var. *japonica*). (完全長トランスクリプトーム配列に基づくカラマツ (*Larix kaempferi*) とカラマツ (*Larix gmelinii* var. *japonica*) の遺伝子の包括的なコレクションと比較分析)、BMC Plant Biology、22(1):ページ未定、2022. 10.
10. 矢野慶介、岩泉正和、生方正俊、高橋誠、山田浩雄、有用広葉樹ケヤキの遺伝的多様性とフェノロジー等特性の評価、日本森林学会大会学術講演集、134:P-178、2023. 03.

11 天然林等の育種

111 天然林の育種

1. TAKAHASHI Makoto(高橋誠)、GOTO Susumu(後藤晋・東京大学)、FUKUDA Yoko(福田陽子)、WATANABE Atsushi(渡辺敦史・九州大学)、Utility of chloroplast DNA haplotype data for ecological

restoration using *Fagus crenata* seedlings in case of incomplete seed source information availability. (十分な種子源情報を持たないブナ実生を用いた生態緑化における葉緑体ハプロタイプデータの有用性)、*Ecological Research*、<https://doi.org/10.1111/1440-1703.12351>、2022. 08.

2. HOSHIZAKI Kazuhiko(星崎和彦・秋田県立大学)、TAKAHASHI Satoshi(秋田県立大学)、TANAKA Hiroshi(秋田県立大学)、OKI Shinji(秋田県立大学)、MATSUSHITA Michinari(松下通也)、Stochasticity of individual competition and local match-up inequality for saplings in a niche-structured forest. (樹木苗木個体における競争の確率論的過程)、*Ecology*、103(4):e3624、2022. 04.
3. 鳥丸猛(三重大)、山田ひかり(三重大)、松下通也、永松大(鳥取大)、西村尚之(群馬大)、ブナ稚樹の個体群動態と林冠状態、地形状況、および種内競争の関係、*日本森林学会大会学術講演集*、134:P-250、2023. 03.
4. 玉城聡、福山友博、磯田圭哉、小川広大、木村恵、喰丸峠ケヤキ遺伝資源希少個体群保護林におけるモニタリング調査(15年目)の結果、*林木育種センター年報(令和4年版)*、135-138、2022. 12.
5. 生方正俊、ミズナラの開葉時期の年次間差および家系間差、*森林遺伝育種学会大会講演要旨集*、11:P27、2022. 11.
6. 三浦真弘、シコクシラベおよびトガサワラの結実状況について、*関西育種場たより*、99:2、2022. 11.
7. IWAIZUMI Masakazu G. (岩泉正和)、OHTANI Masato(大谷雅人・(元)兵庫県立大)、YANO Keisuke(矢野慶介)、MIYAMOTO Naoko(宮本尚子)、NASU Jinya(那須仁弥)、TAKAHASHI Makoto(高橋誠)、UBUKATA Masatoshi(生方正俊)、Accurate paternal and maternal immigrant gene flow analysis over three mast years detects relative levels of gametic heterogeneity components in a natural population of *Abies firma*(正確な雌雄配偶子による移入遺伝子流動の解析によりモミ天然林内における配偶子レベルでの遺伝的異質性に関わる要素が明らかになる)、*Journal of Forest Research*、27:297-307、2022. 08.
8. 中村文治(岩手県北広域振興局)、岩泉正和、アカマツの多様性と岩手県における地域資源を活かした利用、*グリーン・エージ*、580:6-9、2022. 05.
9. 岩泉正和、木村恵、高橋誠、矢野慶介、宮本尚子、那須仁弥、生方正俊、モミ林内における散布種子群への親集団の個体サイズと散布距離に依存した雌雄繁殖寄与、*日本生態学会大会講演要旨集*、70:E03-07、2023. 03.

1 2 外国樹種の育種

1 2 1 外国樹種の育種

1. 千吉良治、優良なアカシア種間雑種クローンをベトナムで開発しました、*林木育種情報*、42:5、2023. 03.

1 3 会議報告

1. 木村恵、国際会議 AUSTRALASIAN Seed Science Conference 2021 への参加報告、*森林遺伝育種*、11(2):104-106、2022. 04.
2. 木村恵、上野裕介(石川県立大学)、半場祐子(京都工芸繊維大学)、宮下直(東京大学)、これからのキャリア支援のために—会員情報の解析にあたり—、*日本生態学会誌*、72(2):187-190、2022. 10.
3. 小長谷賢一、Webセミナー「薬用樹木の栽培と利用」を開催、*林木育種情報*、41:7、2022. 11.

1.4 プログラム開発

1.4.1 プログラム開発

1. 花岡創、UAV と AI の活用で調査を効率化するーUAV 空撮画像から深層学習モデルを用いてトドマツの着果を評価する技術の開発ー、森林技術、961:28-31、2022. 05.
2. 花岡創、【解説】講座 森林遺伝育種のデータ解析手法(実践編 9)ランダムフォレスト、森林遺伝育種、11(3):147-151、2022. 07.
3. 花岡創、無人航空機と深層学習モデルを用いたトドマツの着花料評価技術の開発、森林総合研究所研究成果選集 2022(令和4年版)、16-17、2022. 06.
4. 花岡創、武津英太郎、トドマツの樹冠画像からの球果検出に基づく物体検出アルゴリズム YOLO のモデル比較、森林総合研究所研究報告、21(4):267-274、2023. 01.
5. 花岡創、Slicing Aided Hyper Inference を用いた UAV 空撮画像からのトドマツ球果の検出精度の向上、北方森林研究、71:49-52、2023. 02.
6. 花岡創、Slicing Aided Hyper Inference を用いた UAV 空撮画像からのトドマツ球果の検出精度の向上、北方森林学会大会研究発表プログラム、71:P-13、2022. 11.
7. 花岡創、人工知能(AI)の概要と画像認識技術の活用事例、北海道の林木育種、65(1):10-14、2023. 01.
8. 松永孝治、武津英太郎、井城泰一、平尾知士、岩泉正和、大平峰子、山野邊太郎、木村恵、高島有哉、三浦真弘、福田有樹、倉原雄二、久保田正裕、高橋誠、血縁関係のある系統を含む採種園における植栽配置の設計支援プログラムの開発、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、11:P42、2022. 11.

1.4.2 データベース作成

1. 平川英樹(かずさ DNA 研究所)、白澤健太(かずさ DNA 研究所)、井城泰一、高島有哉、福田有樹、平尾知士、三嶋賢太郎、針葉樹 4 種のゲノム情報データベース BreedingTrees-by-Genes の構築、日本森林学会大会学術講演集、134:F4、2023. 03.

1.5 その他

1. 栗田学、高地伸夫(農業ロボティクス研究センター)、林篤司(農業ロボティクス研究センター)、武津英太郎、七夕高也(かずさ DNA 研究所)、磯部祥子(かずさ DNA 研究所)、スギ苗木の成長に影響する環境要因の解明に向けてー3D モデリングを活用したバイオマス量の計測システムの構築ー、画像センシングシンポジウム、28:IS3-07、2022. 06.
2. UCHIDA M. Eiko(内田詠子メガン・九州大学)、KATAYAMA Ayumi(片山歩美・九州大学)、YASUDA Yuko(安田悠子)、ENOKI Tsutomu(榎木勉・九州大学)、OTSUKI Kyoichi(大槻恭一・九州大学)、KOGA Shinya(古賀信也・九州大学)、UTSUMI Yasuhiro(内海泰弘・九州大学)、Age-Related Changes in Culm Respiration of Phyllostachys pubescens Culms With Their Anatomical and Morphological Traits. (モウソウチクの稈呼吸の加齢変化とその解剖学および形態学的特徴)、Frontiers in Forests and Global Change、15、<https://doi.org/10.3389/ffgc.2022.868732>、2022. 04.
3. 戴妮(九州大学)、内海泰弘(九州大学)、安田悠子、光制限環境におけるトドマツの頂端分裂組織の死と形成層の応答、日本木材学会大会研究発表要旨集、73:A15-P-15、2023. 03.
4. 水野晃子(名古屋大学)、別宮(坂田)有紀子(都留文科大学)、木村恵、小山耕平(帯広畜産大学)、鈴木智之(東京大学)、日本生態学会学術大会参加者のジェンダー不均衡とリーダーシップ活動の解析および大会の在り方の検討、日本生態学会誌、72(2):199-206、2022. 10.
5. 鈴木智之(東京大学)、水野晃子(名古屋大学)、半場祐子(京都工芸繊維大学)、小山耕平(帯広畜産

- 大学)、坂田剛(北里大学)、可知直毅(東京都立大学)、木村恵、日本生態学会員のキャリアパスおよび男女共同参画に関する調査—第四回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査における回答から—、日本生態学会誌、72(2):207-214、2022. 10.
6. 河内香織(近畿大学)、木村恵、曾我昌史(東京大学)、高田まゆら(東京大学)、半場祐子(京都工芸繊維大学)、三宅恵子(名古屋大学)、第20回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムに参加して、日本生態学会ニュースレター、59(2023年1月):1-5、2023. 01.
 7. 竹内啓恵(全国森林レクリエーション協会)、木村恵、片桐奈々(岐阜県)、武正憲(筑波大)、高山範理、第132回日本森林学会大会/学会企画「聞いてみたい!女性研究者によるフィールドワーク&ライフイベント」、日本森林学会誌、104(3):182-185、2022. 06.
 8. 花岡創、最近の研究成果のご紹介、野幌の丘から、194:3-4、2022. 10.
 9. 三嶋賢太郎、新たな解析技術を用いた林木育種研究に思うこと、森林遺伝育種、11(4):206、2022. 10.
 10. 大塚次郎、栗田学、大久保典久、渡辺敦史(九州大学)、屋久島由来のスギ精英樹ミニチュア採種圃の造成—経緯及び導入クローンの選定と原種の増殖—、林木育種センター年報(令和4年版)、128-131、2022. 12.
 11. 古本拓也(広島県林業技術センター)、坂田勉(広島県林業技術センター)、大塚次郎、単木保護資材のコウヨウザン野兎害に対する防除効果、日本森林学会大会学術講演集、103:E5、2023. 03.